

研究要旨

虚血性心疾患を主体とする CLIDAS 研究データベースを活用し、薬物投与数および薬物相互作用について検討、ポリファーマシーにおいてはイベント増の傾向があるが、その背景となる薬物相互作用について今後さらに検証を進めて行く。

A. 研究目的

循環器疾患罹患者の高齢化・多疾患合併例増加が進み、ポリファーマシーあるいは薬物相互作用の問題が懸念されるところである。我々は日本人の主に虚血性心疾患患者を対象とした CLIDAS 研究で構築されたデータベースを用いて投薬数あるいは特定の薬物の組み合わせとイベント発生に係る影響を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

CLIDAS 研究で集められた薬の情報は医薬品が商標名で登録され、先発品、複数の後発品などが含まれていたため、一般名で整理を行い、各症例における服用薬剤の全貌が把握できるようデータベース内のデータの整理を行い、統合・整理された薬物データベースを用いてポリファーマシー、薬物相互作用を検討。

（倫理面への配慮）

本研究に用いたデータは電子カルテやそれに接続された部門システムから抽出された既存情報であり、氏名などの個人を識別しうる情報は削除し、病院 ID はハッシュ化する仮名加工した形で利用した。これは「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」第4章第8 1(2)イ(ウ)①および第4章第8 1(3)イ(イ)②に該当するため、各施設のホームページに本研究に関する情報提供を行い、オプトアウトの機会を設けた。

C. 研究結果

参画施設の中の2施設に限定し、データを分析したところ、処方薬剤数が増加するにつれ、心血管イベントが軽微ながら増加する傾向にあることが示された。現在、薬物動態的あるいは薬力学的相互作用が生じうる可能性がある組み合わせについて検証を進めている。

D. 考察

薬物情報が包括的に含まれたデータセットが準備出来ており、今後、多彩な可能性について追加分析が可能となった。また別途、微量検体で体液中薬物濃

度を求めるマスマススペクトロメトリー法による分析も多くの経験を重ねることが出来、今後疫学、分析薬理学の両面からアプローチが可能と考えられる。

E. 結論

ポリファーマシーは多疾患を合併し背景となる心疾患も相対的に重症であることを部分的には反映するが、薬剤数の多寡は簡便な予後予測因子である。今後、背景にある薬物相互作用について検討を追加する。

G. 研究発表

1. 論文発表

Oba Y, Kabutoya T, Kohro T, Imai Y, Kario K, et al. *Circ J.* 2023 ;87:336-344.

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 該当なし

2. 実用新案登録 該当なし

3. その他 特記事項なし